



WORLD CLEANUP DAY 活動報告書

2023

- 年次報告 -

**WORLD
CLEANUP
DAY** 2023
16 SEP



日本と世界各地の活動事例

WORLD CLEANUP DAYとは？

2008年、エストニアで若者9人が不法投棄されたごみであふれた森林をきれいにしようと国じゅうに呼びかけました。「Let's Do It 2008」と命名されたこのクリーンアップ運動には1日で5万人以上(エストニアの人口の約5%弱)のボランティアが参加し、わずか5時間で1万トン以上の不法投棄ゴミの除去に成功しました。

人口の5%が一致団結して課題解決のために行動するという市民運動の力を見つけた、このサクセスストーリーに端を発し、人口の5%の参加を目指すクリーンアップ運動がヨーロッパ各国、そしてアフリカ、アジアへと広まり、2018年から世界各国で同じ日(9月第3土曜日)に地球を一斉にキレイにする「WORLD CLEANUP DAY」として実施されました。第1回の

2018年には157ヶ国で1800万人が参加し、主催団体であるエストニアのLet's Do It Foundationは、2018年ユネスコ/日本ESD(持続可能な開発のための教育)賞を受賞しました。<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1409425.htm>

その後、主催団体がNGO Let's Do It Worldに再編され、毎年「WORLD CLEANUP DAY」が実施されてきました。2023年には198ヶ国1910万人が参加し、2018年以降、延べ211の国と地域で9,100万人が参加し、推計で54万トン以上のごみが世界中で拾われました。このような活動を経て、嬉しいことに、2023年12月、国連国際デーに「WORLD CLEANUP DAY」(毎年9月20日)が登録されました。

日本の活動状況

日本でも2018年から、駐日エストニア大使館の支援を受けて「WORLD CLEANUP DAY」を開催しています。そして、2019年からは「海と日本PROJECT」の一環として、日本財団・NPO法人海さくら・WORLD CLEANUP DAY日本事務局の共催で「WORLD CLEANUP DAY」を実施してきました。2022年には、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANを設立し、引き続き「海と日本PROJECT」の一環として「WORLD CLEANUP DAY」を運営・実施しています。

WORLD CLEANUP DAY 2023は、WORLD CLEANUP DAY 当日の9月第3土曜日(2023年9月16日)を含め、2023年9月1日から30日までの間、全国各地で清掃活動が実施されました。参加者は過去最高の16,745人に上り、全国500を超える箇所でもクリーンアップが実施され、10トンを超えるごみを回収しました。

WORLD CLEANUP DAY 2023 には前年の2倍となる16,745人もの方々にご参加いただきました。ご参加・ご協力いただいた団体・企業・個人の皆様、誠にありがとうございました。また、ご後援・ご協賛いただいた駐日エストニア大使館、日本財団様、各企業・個人の皆様にも感謝申し上げます。改めて、地球をきれいにするという壮大でありつつ身近な課題の解決に向かって、全国各地で一緒に取り組むことの喜びと素晴らしさを感じました。

2024年からは、「WORLD CLEANUP DAY」が国連国際デーの1日(毎年9月20日)となりますので、これまで以上に世界のみなさんと共にクリーンアップ活動を実施していきます。WORLD CLEANUP DAY 2024は、9月20日および21日(9月第3土曜日)を含め、2023年9月1日から30日までの間、実施する予定です。世界各国で実施される「WORLD CLEANUP DAY」を1つのきっかけとして、世界各地で直面しているごみ・環境問題を考え、身近なところから実行し、世界で同じ意識を持つ人たちと行動を共にすることで、大きな力を生み出し、課題の解決につながるものと信じています。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。



<日本での運営・実施団体>
〒135-0043 東京都江東区塩浜1-6-8-1309
NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPAN
代表理事 浅井孝夫
info@worldcleanupday.jp



運営協力: NPO法人海さくら、日本・エストニア友好協会 後援: 駐日エストニア大使館、国立市
協賛: CMA CGM JAPAN株式会社、株式会社グローバルプロデュース

2023年 日本の集計結果

2023年9月16日(土)

【2023年9月1日～30日の実施含む】



【推移】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
参加人数	811人	4,333人	3,916人	5,949人	8,384人	16,745人
ごみ回収量	406袋	2,700袋	5,520袋	4,270袋	5,679袋	5,200袋



東京都渋谷区/原宿キャットストリートのクリーンアップ



東京都渋谷区のスタジオからライブ配信

World Cleanup Day 2023

グローバル結果概要

今年の結果が物語るように、World Cleanup Day 2023 は記念碑的な成功を収めました。多くの記録を破り、成功に導いた重要な要素が認められ、この一年で国連SDGsモビライズ賞を受賞し、国連国際デーの仲間入りを果たしました。

198の国と地域から 19,068,786 人が参加し、過去最高を記録しました。また国連加盟国の 90% という新たな最高記録にも至りました。WCDとしては過去2番目に高い年間参加者数を記録し、新型コロナウイルス感染症以前の参加レベルに戻りました。

今年はいくつかの記録が更新されました。中でも、36カ国が各国の参加レベルを向上させました。モザンビークの参加者325万人はリーダーボードのトップとなり、それまでの60%アップとなりました。

カンボジアとブラジルは、それぞれ約160万人と60万人となり、過去の記録のほぼ2倍にすることに成功しました。ドイツも記録を更新し、前年比ほぼ50%増の43万8,000人に達しました。

エストニアでも今年5万6,000人が参加し、過去最高を記録、初めて2008年のクリーンアップデーの参加者数を上回りました。

さらに、コンゴ民主共和国とバルバドスでは、それぞれ440名と20名という比較的小規模な過去最高記録から、コンゴ民主共和国では16倍を超える7,229名、バルバドスでは60倍以上の1,250名となりました。

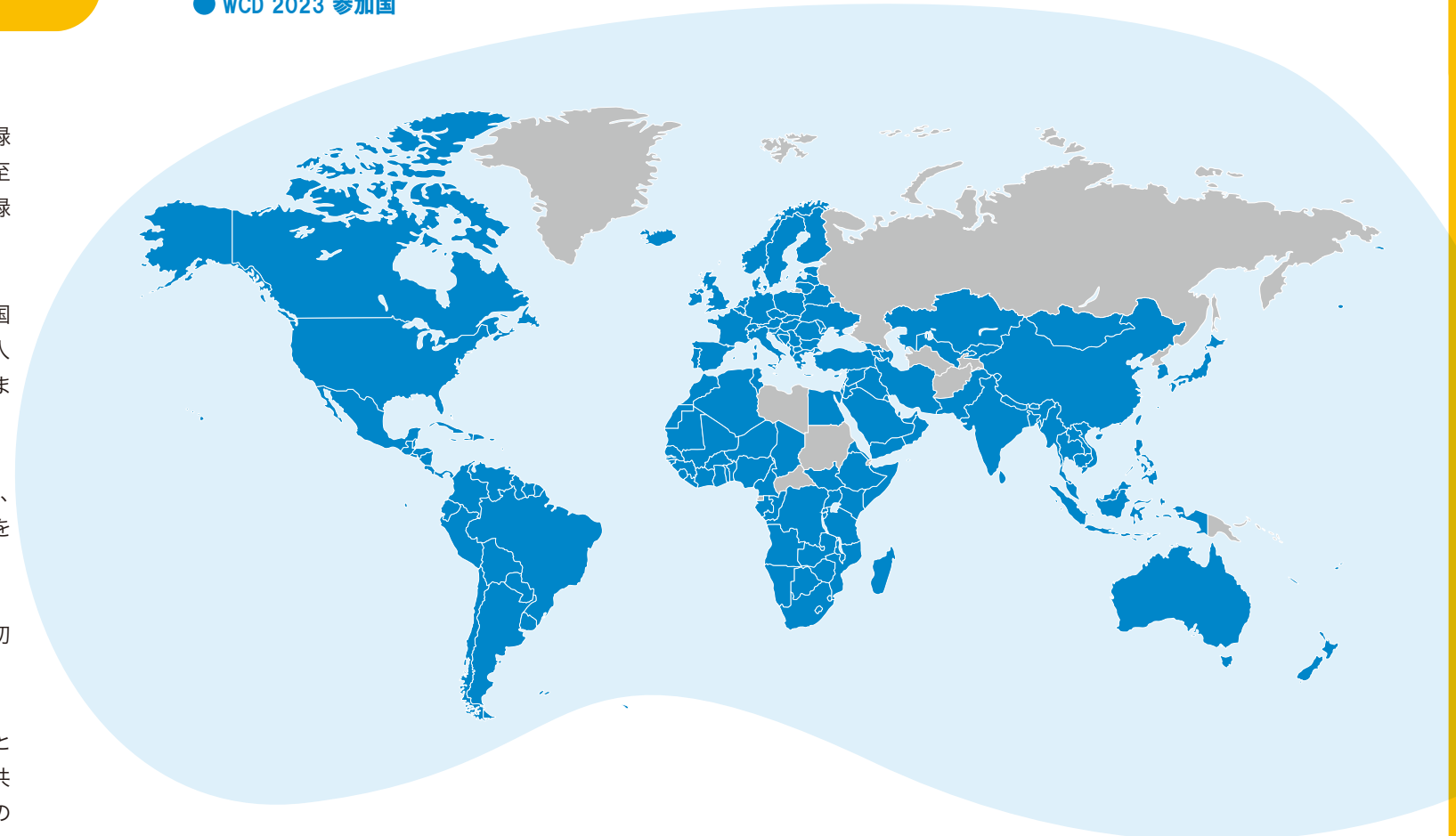
しかし、一国の人口に対する動員率としてはどうでしょうか？ 私たちが世界人口の5%を目指していることを考えると、各国レベルでどれほど取り組まれているか、振り返ってみるのも良いでしょう。今年のチャートのトップはモザンビークの9.6%で、僅差でカンボジアの9.3%が続きました。ラトビアは一貫して5%台を突破し、7.7%を記録しました。

持続的な社会行動の変化を創り出し、廃棄物管理全般、特にごみ発生の抑制対策を順調に進めているこれら3カ国に祝意を表します。

データを深く掘り下げてみると、私たちのメッセージである持続的な社会変革の必要性が一般の人々や特に政策立案者の双方に受け入れられ、将来的に良い傾向にあることがわかります。

私たちは皆さんと一緒に、クリーンで健康的で、ごみのない世界を実現する媒体として大きなインパクトを与えています。これらの傾向を見つ、WCD 2023 の大きな成果を得た事例をご紹介します。

WCD 2023 参加国



THANK
YOU



参加者

1,910万人

198
の
国と地域



国連
加盟国の



90%

ごみ回収量
21万9千
トン



若者の力

WCD 2023の最も重要かつ目覚ましい傾向は、若者の参加が大幅に増加したことです。モザンビークでは、教育省との協力体制により、1,200以上の学校でごみや汚染に対する意識を授業に組み込むことができるようになりました。

その結果は？ 約200万人の子どもたちが参加したため、2023年にはボランティア参加者数は国内の記録を更新し、世界記録となる325万人に達しました。モザンビークの人口の9.6%に相当します。WCD 2019以来、どの国においても最高レベルの数値です。

ナミビアでは予想の2倍のボランティアが集まり、そのうち80%が子供たちでした。フランスは、15万人のボランティアのうち3分の1が子供たちだったと報告しています。バヌアツでも、オリンピック委員会がクリーンアップ活動を企画したこともあり、若者たちも子供たちと一緒に並外れた熱意を示して参加しました。

スリランカもまた、数千の学校への参加を優先し、若い世代に意識を広めることに成功しました。これは、特に今年、世界中で見られたパターンです。



ナミビア

強化する各国政府



カンボジア

もう1つの注目すべき傾向は、多くの国でWCD活動への政府の参加が増加していることです。地方自治体から国連代表、各国大統領まで、明らかに政府関係の人たちが私たちのミッションに積極的に関心を抱き、私たちが発するメッセージをより深く理解するようになっていることは明らかです。

その結果、私たちの活動は草の根レベルだけではなく、政府内にも浸透してきています。私たちが直面している不法廃棄物の増大に対して、各国リーダーは拘束力のある法案の導入を政府に求めており、政策立案者の関与が必要なことは明らかです。

民間企業の認知度向上

大きな注目を集めているのは若者や政府だけではありません。今年は企業への認知度や企業との連携が明らかに高まっています。ソーシャルメディアプラットフォーム、特にLinkedInでは、企業や団体が主催するクリーンアップ活動を讃える投稿で賑わいました。

企業の参入は、参加条件の生命線ともなる3分野（民間・行政・企業）を完成させ、世界的な不法廃棄物への危機管理意識が社会のあらゆる分野で高まっていることを浮き彫りにしています。



エジプト

予想に反して成功する



ウクライナ

戦争、紛争、その他の課題の真っ只中であつたにもかかわらず、なんとかクリーンアップを実行した国々に多大な敬意が払われるのは言うまでもありません。ウクライナでは、「空を平和に、ウクライナをきれいにしましょう！」というスローガンの下、28万2千人以上が参加しました。ウクライナで過去2番目に多い合計数です。24の地域でクリーンアップが実行されたことも判明しています。

コンゴ、ハイチ、イラン、レバノン、ソマリア、シリア、イエメンの勇敢なボランティアも、自国の社会的混乱による潜在的な致死的风险に直面しながらも、クリーンアップ活動に参加しました。

ごみ—地球上の負担を減らす

WCD 2023 のレポートでは、全世界で収集されたごみの総量は実に218,704トンにもなりました。これは前年を上回っており、参加者数も2番目に多い年でもありました。重要なことは、この数字のうち98%はWCDの各国のリーダーの報告から直接得られたもので、「外部」の情報源、つまり指定されたWCDチーム以外の国からのものはわずか2%にすぎません。

今や、私たちはビーチでペットボトルを拾ったり、公園でキャンディーの包み紙を拾ったりするという基本活動をはるかに

超えて活動しています。多くの国で、WCDのイベントでごみ拾いチームに貸し出された機械を使って、膨大なごみの山が撤去されているという事例が増えています。

そのようなごみは、腐敗したり水に浸ったりし、広範囲の土地を汚染します。「きれいにする」唯一の方法は全てをすくい上げることです。この概念は、長年にわたって蓄積してきたごみがある国で集められた膨大な量の廃棄物を語るのに、大いに役立ちます。

メキシコ — タバコの吸い殻 22 トン

「参加者数vs.ごみ回収量」という尺度で、メキシコ全土で198万人の参加者が、タバコの吸い殻の回収に重点を置いた清掃活動を実施しました。重さ0.2~0.4グラムの吸い殻を、なんと約22トン収集したと報告しています。これは7,260万本の吸い殻に相当します。それもたった1日で！

メキシコの取り組みは目覚ましいですが、これは年間生産される5兆6,000億本の吸い殻のうちのわずか0.0013%にしか相当しません。またその75%は下水路を通して自然界に廃棄され

ているのです。タバコの吸い殻はプラスチックできており、約150種類の毒素が含まれています。これは生物にとっては致命的です。たった1本の吸い殻で1,000リットルの水を汚染する可能性があります。想像を広げて、世界の川、湖、海、海洋が受けている汚染を考えてみてください。

この重大な汚染問題に意義深いスポットライトを当ててくれたメキシコ、本当にありがとう。



イエメン – 行われている「重労働」

「参加者数vs.ごみ回収量」という尺度で対極に位置するイエメンは、わずか94人のチームを集め、身近なところから108トンものごみを除去しました。同時に、数百軒の家庭を戸別訪問しての情報提供キャンペーンや、ごみ処理システムの設置、ごみ袋の配布が行われ、収集トラック3台とブルドーザーも配備されました。

国連ハビタットによると、20億人もの人々がごみ収集サービスを利用できていません。そして推定30億人がどこにでもごみを捨てています。これは、毎日100万トンを超えるごみが私たちの健康と環境に影響を与えていることを意味します。海も同じです。

これほどの規模でごみが散乱し、ごみ処理インフラが欠如している地域は、必然的にそれを除去するのに人の手作業ではとても処理しきれません。

「20億人がごみ収集サービスを利用できず – 推定30億人がどこにでもごみを捨てている」



Let's Do It World に仲間入りした国々



私たちのムーブメントの規模、熱量、影響力が増し続ける中、WCD 2023 には国連加盟国から6カ国が初参加しました。新規参加国の中には、サモア、ツバル、パラオ、キリバスといった太平洋諸国も含まれており、いずれも沿岸地域に対する気候変動の壊滅的な影響について国連レベルで声を上げてきました。

彼らは、大陸諸国の川から海に流れ着き、自国の海岸に打ち上げられた大量のごみに対処するための行動を起こしています。彼らが声をあげることで、私たちのムーブメントは世界的に広がり、連携して新たな地平線を越えていきます。

2023年の際立った活動報告

結果の大小を問わずクリーンな未来への道のりの一環としてWCDに参加した全ての国々の成果を祝します。そして、例年通り、2023年のリーダーボードのトップに立った素晴らしいリーダーの皆さんの目覚ましい成果とその努力を認め、ここに紹介します。

最前線に立ったのはモザンビークです。3つのチャートでトップを記録しました。まず、人口の9.6%に相当する325万人の

献身的なボランティアを動員し、また「動員数の新記録」を達成しました。素晴らしい!

参加人数ではその後にインドネシア、インド、米国、メキシコが続きました。それぞれ261万、246万、235万、198万人が参加しました。これらの感動的な結果は、共通の目的のために団結し、環境のために何かすごいことを行なうエネルギーを蓄えている一人一人の計り知れない力を表しています。

上位参加人数

1	モザンビーク	325万	6	カンボジア	157万
2	インドネシア	261万	7	ブラジル	60万
3	インド	246万	8	ドイツ	43.8万
4	アメリカ合衆国	235万	9	イタリア	40万
5	メキシコ	198万	10	フィリピン	38.3万

参加者数新記録

1	モザンビーク	325万	6	ドイツ	43.8万
2	インド	246万	7	フィリピン	38.3万
3	アメリカ合衆国	235万	8	スリランカ	10万
4	カンボジア	157万	9	イギリス	8.2万
5	ブラジル	60万	10	エストニア	5.6万

上位人口比

1	モザンビーク	9.6%	6	キルギスタン	2.4%
2	カンボジア	9.3%	7	コンボ	2.2%
3	ラトビア	7.7%	8	アンドラ公国	1.9%
4	ブルガリア	4.5%	9	フェロー諸島	1.7%
5	エストニア	4.2%	10	メキシコ	1.5%

世界に広がる私たちのインパクト

2018年にWorld Cleanup Dayの取り組みを開始して以来、私たちは大きな進歩を遂げています。2018年から2023年までの6回のWorld Cleanup Dayの間、ボランティアの驚異的なネットワークは、国連加盟国の95%を含む211の国と地域で、不法投棄された543,704トンのごみをクリーンアップしました。その結果、新たに合計9,100万人弱の参加者が参加することになりました。これは世界人口の1.1%を超える数字です。

しかし私たちは止まりません! 来年に向けて、私たちはこの数をさらに増やすことを目標としています。マーシャル諸島は、私

たちの来年の参加を求める呼びかけに大いに共感し、ソロモン諸島と共に参加することを約束しました。トルクメニスタンも関心を示しています。

これらの国が参加すると、全ての国連加盟国参加まで残り6カ国となります。赤道ギニア、エリトリア、ナウル、北朝鮮、セントクリストファー・ネイビス、サンマリノ。これらの国に2024年のクリーンアップ活動開催に興味のある友人や家族、連絡が取れる人がいましたら、ぜひお知らせください。

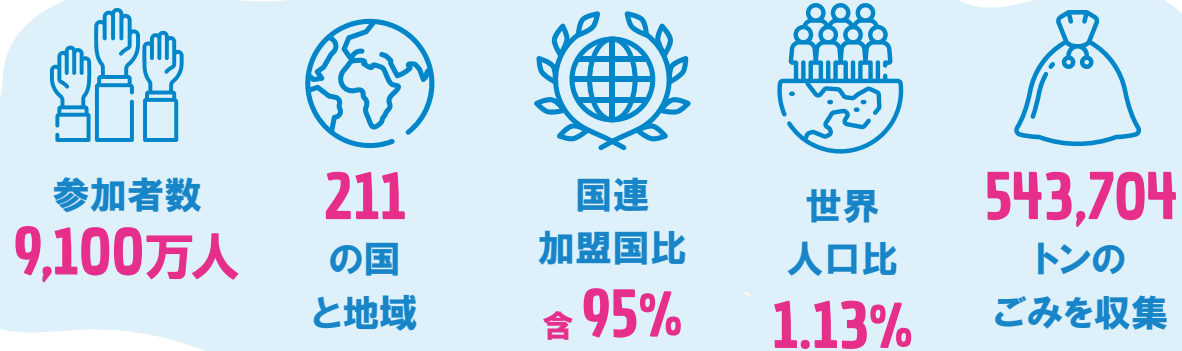


モーリタニア

5年に亘る6回のクリーンアップキャンペーンのインパクト

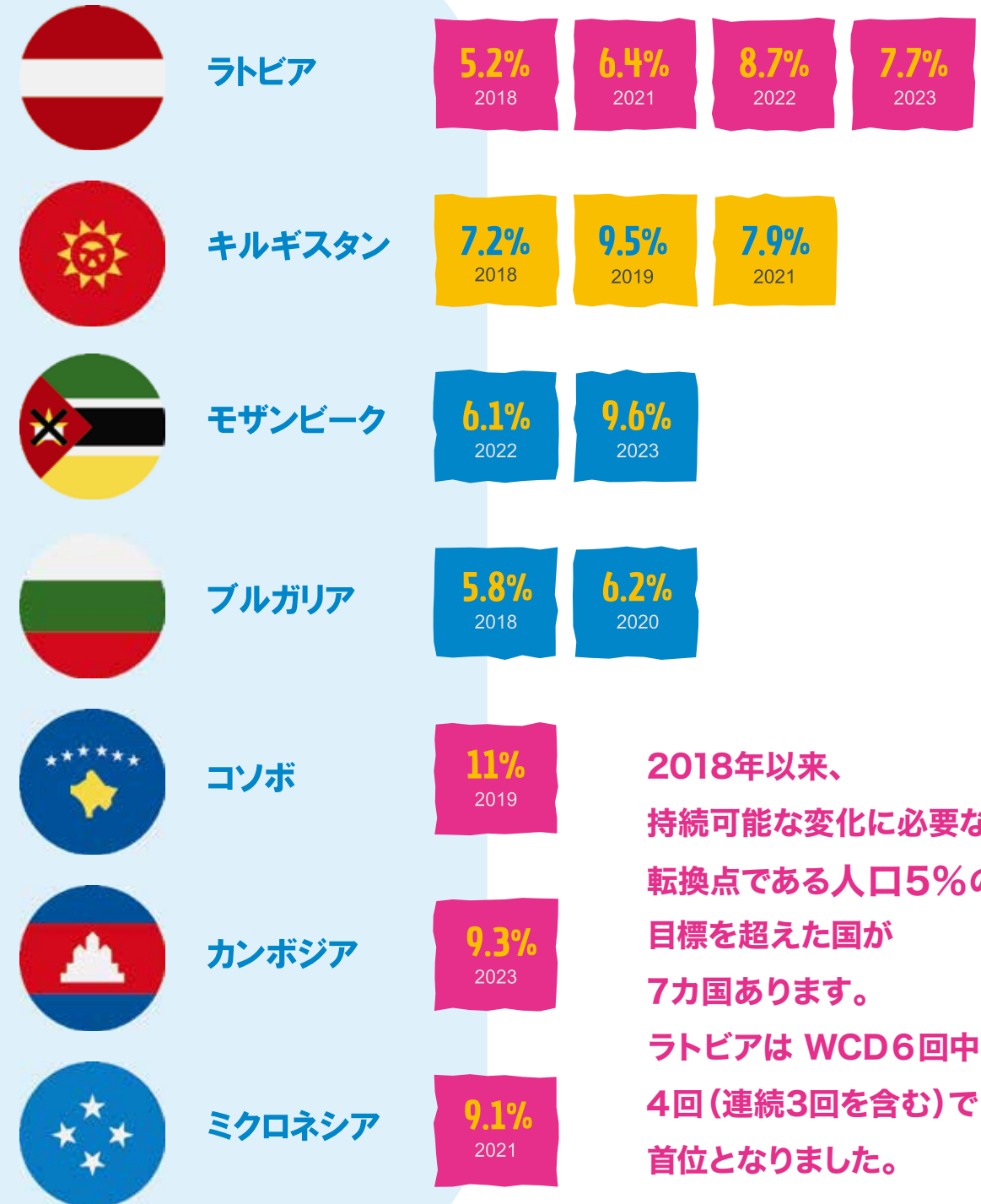
2018年以降、国連加盟国の95%を含む211の国と地域で世界の人口の1.13%にあたる9,100万人が参加し、543,704トンの不法投棄ごみを地球から除去しました

2018-2023



	参加者	国と地域	国連加盟国比
2018	1,800万人	157	76%
2019	2,120万人	180	83%
2020	890万人	166	77%
2021	860万人	191	85%
2022	1,480万人	190	86%
2023	1,910万人	198	90%

5%達成国 (2018-2023)



2018年以来、持続可能な変化に必要な転換点である人口5%の目標を超えた国が7カ国あります。ラトビアはWCD6回中4回(連続3回を含む)で首位となりました。

World Cleanup Day 感動ストーリー

アンゴラ



「2018年、私は少人数のボランティアグループとともに World Cleanup Day Angola を始めました。私たちはみんなで地元の海岸から 20 トン 以上のごみを除去しました。細々としたスタートではありましたが、良いスタートでした。数年後、World Cleanup Day Angola は大勢を巻き込んだムーブメントに成長しました。2023年には、7,318 人のボランティアが全国各地のクリーンアップイベントに参加し、1,890 トンのごみを回収しました。

す。私たちは人々に汚染の危険性と、自分たちの生活にどのように変化をもたらすことができるかを教えています。

街をきれいにすることは、すべての人の健康と福祉にとって重要です。ごみは病気、呼吸器疾患、その他の健康上の問題を引き起こす可能性があります。また、川や海を汚染する可能性もあります。World Cleanup Day Angola は、アンゴラをより清潔で健康的な場所にするに寄与しています。私たちはすべての人にとってより良い未来を築いています。World Cleanup Day Angola の将来は年ごとに大きく成長しています。国民の継続的な支援があれば、この国に変化をもたらし続けることができると私は確信しています。

私たちの目標は、アンゴラをごみのない場所にするにすることです。これが壮大な目標であることは承知していますが、私たちはその達成に全力で取り組んでいます。World Cleanup Day Angola の成功にご尽力いただいたボランティア、パートナー、サポーターの皆様に感謝しています。私たちは力を合わせて、すべての人にとってより良い未来を築いています。」
レナート・ボルボレマ、WCDアンゴラ カントリーリーダー



この成長は集団行動の力の証です。人々が変化をもたらすために団結すると、素晴らしい成果を達成することができます。World Cleanup Day Angola は国をクリーンアップするだけでなく、ごみ処理の重要性についての意識を高めま

ブラジル

「ブラジルの WCD 2023 では、人口の 0.28 % に相当する 60 万人以上のボランティアが参加し、1,220 トンのごみが回収され、ボランティアの国内新記録を樹立しました。人口2億人を超えるこの広大な国で大規模な動員を実施するにはさまざまな課題がありましたが、私たちは全国最大のクリーンアップイベントを推し進める戦略を練りました。

私たちの主たる戦略は、州、地域、地方レベルで行動を組織するためにリーダーを動員すること。各都市で大規模なイベントを開催するために力やツテ、知識を結集することでした。今年はブラジル全州で1,841人の組織リーダーが活動を推し進め、イベントはオンラインで生中継され、2年連続で番組はスタジオで録画され、後日 YouTube にアップロードされました。

大学、企業、市役所など大規模なネットワークとの提携により、学生や従業員を行動に参加させることができ、全国への影響力が高まりました。メディアの力により、テレビ、インターネット、ラジオ、新聞、その他のメディアを通じて有機的に4,700万人以上の人々にリーチすることができました。ニュースは少なくとも246件のプレスリリースを通して広まり、価値にして総額2兆7,343億4,800万レアルという驚異的な金額に達しました。

クリーンアップ活動に加えて、2,034本の植樹をしたり、食料品や衣料品の寄付キャンペーンを実施したりしたほか、一般不用品の寄付を受け付けるリサイクル箱をブラジル全土に80か所設置しました。さらに、#ITakeCareOfMySpace活動は、ボランティアに自宅を離れることなく自然保護活動や自

然に関するケアを実践するように促しました。このキャンペーンは、新型コロナウイルスのパンデミック中に作成され、それ以来毎年実施されています。

- 環境清掃：家庭ごみの分別と適切な廃棄、食用油や電子機器廃棄物の処理、有害ごみのマッピング、デング熱の発生を排除するための清掃。
- デジタルクリーニング：CO2排出量を削減するために、デバイスから不要なメールやデータファイルを削除します。
- 連帯清掃：不用品を分離し、必要としている人に寄付。
- 心の浄化：「ワールド・ウェルネス・ウィークエンド」運動による瞑想、スポーツ、音楽、ダンス、ヨガ、読書、プログラミング。
- 講演会、ワークショップ、イベントなどをオンラインで企画。

私たちは100万人のボランティアに向けてさらにレベルアップさせて2023年を締め括れたことを誇りに思っています。2024年には気候教育を通じてプラスの影響の次元を倍増させたいと考えています。」

エディアイン・ペレイラ
WCDブラジル（「リンパ・ブラジル」）カントリーリーダー





ヨーロッパ最後の分割首都における 平和のための清掃

Let's Do It! Nicosia は
分断された都市ニコシアを越えて
島の両方のコミュニティを結集させ、
共通の目的のために力を合わせることを
目指して World Cleanup Day を
実施します。
城壁都市の11の要塞内全域とその周りの
地域を清掃します。



Let's Do It! Nicosia の美しさは協力と協調にあります：
ギリシャ系キプロス人とトルコ系キプロス人の各コミュニ
ティの間に架け橋を築くと同時に、サステナビリティ（持続可
能性）や生物多様性といった環境問題をキプロス国民に勧
奨し、教育しています。

2021年にたった12人で始めましたが、積極的な駐キプロ
ス米国大使館と北部のキプロスグリーンアクショングループ
（Yesil Baris Hareketi）の協力や、多くの外国大使館、
外交官、そしてUNDPの温かい参加により、2023年には
125人のボランティアに成長しました。

「私たちは、Let's Do It! Nicosia が、私たちの世
代にとって先例となり、そして次の世代に向けたイン
スピレーションとなることを期待し、ゆっくりと地球
にやさしいステップを歩んでくれることを願います。」
イリアナ・ニコルソン医師 Let's Do It! Cyprus

Let's Do it! Cyprus は、2023年を通じて合計30,000
人以上のボランティアが参加しましたが、そのほとんどが
小中学校の生徒でした。このキャンペーンでは、偏見や差
別なく、すべての人に無料のクリーンアップ用具を提供する
ため、誰でも参加できます。

キプロス

ニュージーランド

Keep New Zealand Beautiful は
2023 年の World Cleanup Day に、
3,606 人のボランティアを動員して
全国 75 カ所でクリーンアップイベントを
実施、合計 35 トンのごみを回収しました。

Keep New Zealand Beautiful が World Cleanup
Dayに参加するのは今年で3年目となりますが、この日を
毎年恒例の「クリーンアップウィーク」の開始日としていま
す。それは地元の人々がそれぞれのコミュニティに参加して
環境改善を促すニュージーランド最大のイベントであり、同
時にごみに対する世界的な取り組みに貢献するものです。

この恒例行事は毎春7日間開催され、個人、学校、企業、地
域グループに自然に出かけて行ってごみを拾うことを奨励
することが根幹となっています。

「クリーンアップウィーク」は、環境から大量のごみを除去
することを促進するだけでなく、環境教育の取り組みとし
ても機能し、参加者（そして国全体）に問題の大きさと同
切にごみを処理することがいかに重要であるかを教えてく
れます。

Keep New Zealand Beautiful のCEO、ヘザー・サン
ダーソン氏は次のように述べています。「私たちは World
Cleanup Day のニュージーランドのメインパートナーであ
ることを誇りに思います。またそれはクリーンアップウィ
ークにとっても、世界中で同じ動機で多くの人々を結集させ
るムーブメントにグローバル規模で貢献できることは素晴ら
しいことです」

Keep New Zealand Beautiful は、政府主導のごみ
削減機関として1967年に始まりました。1979年に新た

な会則と組織を持つ社団法人となりました。同年、New
Zealand's Litter Act 1979 は、より厳しいごみ防止法を
導入し、ニュージーランドにおけるごみ削減推進の責任を
負う主団体として協会が公式に認められました。義務付け
られたその地位は今日でも維持されています。

Keep New Zealand Beautiful は、ニュージーランドを
代表する最も歴史のある環境非営利団体の1つであり、環
境教育やコミュニティ主導の取り組み、行動変容キャンペ
ーン、ごみに関する証拠に基づいた継続的な研究を通して、
世代を超え、持続可能性や気候リテラシーに配慮したコミ
ュニティの構築に邁進しています。

Keep New Zealand Beautiful は、2024年の World
Cleanup Day に例年同様「クリーンアップウィーク」を開
始します。





「人口約2億人のナイジェリアでは、**毎年約250万トンのプラスチックごみ**が発生しており、そのうちリサイクルされるのは**10%未満**です。」

「この国の汚染問題は、不十分なごみ処理インフラ、ポイ捨てなど不適切な行動、未熟なごみ収集労働力、プラスチックごみの無分別投棄と焼却、意識の低さ、資金不足などによって悪化しています。」

Let's Do It Nigeria は、周囲のごみ問題を見てアクションを起こすよう直接呼びかけられたところから始まり、すぐに行動を起こすために連携し、各州で解決策を考え出すためのチームを結成しました。

2023年のWorld Cleanup Dayでは、豪雨にも関わらず非常に多くのチームが、この日を確実に名誉あるものにするために、あらゆる逆境をもとめず結集しました。実際、26,905人がこれに参加し、WCDの国内新記録を樹立しました。私たちは自らの行動で環境を清潔に保ち、よりクリーンな社会を推進しようというメッセージを明確に伝えました。

対象となった全国28州の記録によると、合計141,435個のごみ袋に2,829トンのごみが収集されました。

参加した地域チームは、皆クリーンアップ活動が政府、企業、コミュニティ、市場、個人にメッセージを伝える第一歩



になったと感じています。彼らの積極的なクリーンアップ対策を通して、ごみ処理の改善が現実を変え、生活の質を向上させる機会を生み出すということが明らかになりました。

これまでの過程を共にし、多くのことを分かち合い、取り組みを継続するために費やしたエネルギー、情熱、決断力を共有したすべての地域コーディネーター、ごみゼロ社会活動家、団体にお礼申し上げます。

道のりはまだ長いことは承知していますが、クリーンで健康的なごみのない世界というビジョンの達成に安住すべきではありません。

Let's Do It Nigeriaは皆さんに感謝の意を表します。」

オルミド・コーカー
Let's Do It Nigeria カントリーリーダー

ナイジェリア

ツバル

ツバル諸島の島民には、自国が直接影響を受けている気候変動に関する意識向上について**確固たる評判**があります。

地方自治体のごみ処理部門と地元の赤十字社の協力のもと、首都圏の100人を超える人々を動員してビーチクリーンアップを行い、他の8つの島でも多くの学童たちが参加しました。

初めての報告で、私たちはツバルのコミュニティをLDIWファミリーに迎え、14,000 kg を超える驚異的なごみ回収に敬意を表します。Talofa and fakafetai! (サモア語・こんにちは、ありがとう!)





イギリスはEU脱退以来、独特の環境課題に直面しています。しかし 2023 年の World Cleanup Day では団結と回復力を強調するメッセージを伝え、地域社会が自主的に環境管理に取り組んでいることを示しました。ボランティアは公園や路上、ビーチをクリーンアップし、地球規模のコミュニティを育む精神において、環境責任が政治的境界を超えることを示しました。

新型コロナウイルス後の影響もまた、人間と地球の両方を守るための新たな取り組みを反映して、その役割を果たしました。WCDは、個々の行動がどのように集団に大きな影響を与えることができるかをはっきりと立証しています。

WCD 2022 は女王エリザベス 2 世の逝去を悼んでいる時期と重なり、WCD 2023 も 追悼の感情も冷めやらない時期に行われました。今年、参加者はこの共通の目的意識を環境への取り組みに持ち込んでおり、多くの人々が自分たちの行動を故女王の地域社会に対する義務という遺産への賛辞とみなしています。

イギリス全土で、さまざまなコミュニティがクリーンアップ活動に参加しました。地方自治体、学校、企業、その他の NGO がイベントを支援する上で、環境問題への理解を育むという重要な役割を果たしました。

ソーシャルメディアでは、クリーンアップ活動の画像やストーリーが共有され、#worldcleanupday がトレンドとなり、WCDの日の人々が一丸となって協力し、団結したその精神や意気込みの象徴となりました。

WCDの影響は目先の環境上の利益を超えて広がり、プラスチック汚染、気候変動、生物多様性の喪失といったより幅広

い話題へと議論を広げています。それは個々の責任と集団の力が、世界的な変化をもたらす上でどれほど重要であることを強調しています。

企業の参加は、ビジネスにおける環境意識の向上に大きな変化を示しました。

企業はクリーンアップ活動に資金提供したり、従業員を環境管理に参加させて、持続可能性への取り組みを始めたり推進したりしました。

WCD は明らかな達成感をもって終了しました。82,000 人を超える参加者が、不法投棄された1,450トンのごみを回収し、以前は散乱していたエリアが復元され、コミュニティはお互いや環境へのつながりをより感じるようになりました。

WCDが2024年から国連のカレンダーに追加されたというニュースは、来年のイベントをより一層強力で結びつける動機を与えてくれます！

手短かに言うと、イギリスの WCD 2023 は 環境への取り組み以上のものとなりました。それは、連携、回復力、そしてコミュニティというテーマを称賛し、未来への希望に満ちたビジョンを提供し、大きな変化の時期を通過している私たちの旅を反映しており、分断や不確実性の時代であっても、社会のために集団で行動するという考えを強化するものでした。地球に対する善は、強力かつ持続的な方法で人々を団結させることができます。

デビッド・パークス、WCD 英国カントリーリーダー



イギリス



イエメンは世界で最も複雑な人道危機の一つに直面しています。9年に及ぶ壊滅的な紛争と経済危機により、何百万人もの人々が人道支援を必要としています。

非効率なごみ処理システムは健康や紛争、気候変動、家を失った人々の移動、衛生・環境サービスの崩壊と明らかに関係していて、それに不十分な行政が重なって感染症にとっての『パーフェクトストーム』を生み出しているのです。

ユニセフの報告によると、水と衛生インフラへの甚大な被害により、920万人の子供を含む1,780万人以上がきれいな水と衛生システムが整備されていない環境下にあります。

貧困は、都市部でも農村部でも基本的な家庭における衛生管理が行き届かないもう1つの理由です。特に後者は個人の衛生の重要性についての意識がなく苦しい生活を強いられています。コミュニティ全体がきれいな水と衛生設備にアクセスできないため、日常の家庭ごみ廃棄がすでに悲惨な状況に陥っています。

これが、イエメンの WCD チームが単なるクリーンアップ活動に留まらず、包括的かつ持続可能な意識向上キャンペーンを実施して、全体的な環境と健康状況の改善を目指す理由です。子供430人と女性800人を含む、住民2,500人を対象にしてパイロット計画が実施された地域がありました。この計画は、WCDイエメンの国内パートナーである「ブライト財団」の自己資金で賄われました。何百もの家庭が戸別訪問の情報キャンペーンに参加し、

ごみ処理システムの導入、収集袋の配布、収集トラック3台と小型ブルドーザーの配備がなされました。コミュニティのリーダーたちは、効果的な清掃活動の組織化、その管理、そして実施方法について研修を受けました。

5つの地区で94人が結集してすべて健全な方法で108トンのごみを処理しました。その結果、住民にとってより安全な環境が生まれ、地域社会をより良い衛生レベルに維持するために必要な知識が定着しました。

課題はまだ残っています。溜まったごみや浄化槽はトラックやブルドーザーがアクセスできないところにあることが多く、感染や危険などから身を守るための個人用保護具も不足していたり、懐疑的な見方をする人もいたりするため、参加を促すことは難しいです。それにもかかわらず、コミュニティの反応によると、この実験的計画は圧倒的に支持され、受益者の90%は参加した活動の質と有効性に満足していると表明しました。今年は UNOPS (国連プロジェクトサービス機関) チームの参加のおかげで、将来の計画やこれからのWCD活動にとって非常に心強いものになりました。WCDイエメンは、国連カレンダーへの掲載が2024年の計画への支持をどれくらい強化できるか、楽しみにしています。



イエメン



一般社団法人ClearWaterProject/愛知県名古屋市



Zamami Cleanup Club/沖縄県島尻郡座間味村
ベルギー



堺浜マイクロプラスチックカフェ/大阪府堺市
ゴラッソ高崎FC/群馬県高崎市



ドイツ
NPO法人 HUB&LABO Yakushima/鹿児島県屋久島塚崎海岸



リベリア
千葉愛の教会/千葉県千葉市



ADVENTURE PIPPI/宮古島



海をまもろう。/静岡県吉田漁港西側海岸



ツバル
ウクライナ



Thank you!

supported by



worldcleanupday.jp

NPO法人 WORLD CLEANUP DAY JAPAN

info@worldcleanupday.jp

